

議事の経過

発言者	議題・発言内容・決定事項等
司会 事務局	○開会のことば 本日、過半数の委員が出席のため、委員会成立である。
小林委員長	～以下、公開～ ・はじめに、上尾市の不登校対策に関する請願について事務局から報告をお願いします。
事務局	・第2回の本委員会でお伝えした、令和6年9月議会において採択された「上尾市の不登校対策強化（教育予算拡充）に関する請願」の対応について報告する。
小林委員長	・続いて、質疑を行います。何か確認することはありますか。 ※委員からの意見なし
小林委員長	・それでは調査検討に移ります。会の進行の御協力と慎重な調査・検討をお願いいたします。始めに、（1）関係者の連携の在り方についての説明を事務局から、お願いします。
事務局	・関係者の連携の在り方について（民間施設等連絡会）について説明する。
小林委員長	・それでは、検討に入ります。意見がある方はお願いします。
増田副委員長	・今回は、各施設がどのような活動をしているか、どのような子の支援をしているのかという内容だった。これまで民間施設がこのような形で集まったことはなかったので良かったと思う。以前勤務していた学校の児童が通っていた民間施設が参加していたので、児童の情報交換を個別にできるといいと感じたが、会とは別で行うのも良い。
太田委員	・上尾の子が多くの方々にお世話になっていると感じた。それぞれの民間施設の運営上の特色が分かった。今回の会には参加していない民間施設ではあるが、以前勤務していた学校の時には、出席状況等の連絡をもらっていたことがある。本人の状況把握につながり、学校として、とてもありがたかった。民間施設よって、学校と連携しようとする姿勢に違いがあることも分かった。それぞれの施設による支援などの情報は施設同士でも参考にされていたと思う。

門馬委員	<ul style="list-style-type: none"> 施設同士がどんなことをやっているか分かり合うことはよかったと思う。この情報が学校に伝わるとよい。
栗原委員	<ul style="list-style-type: none"> 相談員は子供たちを繋ぐ立場にある。直接話を聞ける機会があるとよい。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 一度同じようなことを懇談会としてやったことがある。互いを知ることによって、住み分けができたり、支援の引継ぎも検討したりすることができる。
松田委員	<ul style="list-style-type: none"> たくさんの施設の方が集まることはこれまでになかった。ここで得た情報は不登校を抱えた保護者に対応するときに、説明できる内容であると思った。学校への情報提供も必要だと思う。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 校内でどのように共有していくかも大切な視点である。
波瀲委員	<ul style="list-style-type: none"> 民間の施設に行ける子、行かせられる家庭はよいが、子供が外に出たがらない家庭には、こういった情報は伝わり方によっては、マイナスになることがある。こういった場までいけない家庭は、親子とも沈んで行ってしまうこともあり得る。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 今回の民間施設の中には訪問看護ステーションがある。私の施設でも6つの機関と連携している。保険対応、医療との連携がある上に、とても丁寧な報告してくれるので、ありがたいシステムである。 塾形式の施設などもあり、料金のことなどそれぞれの施設が互いに知っているかどうか大切なことである。
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> 開催のタイミングは、年度当初と中間あたりがよい。年度当初は人事異動があるため、顔合わせも含め、毎年同じことでも伝えていけるとよい。アンケートにある事例研究を行うのであれば、課題の共有というより、成功事例の発表など伝え合うとよいと思う。それを聞いた方も、今後のアプローチの参考にすることもできる。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 事例を挙げ、それぞれ意見を出し合うことも良い。例えば「うちの施設の特徴はこれです」と出しつつ、参加者の中でどのように支援策を講じていくかを出し合い、最も良い支援を検討していく方法がある。
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> それぞれの施設が自分たちの技やアプローチの仕方を出し合えるとよい。多くの支援について意見が挙がることで、互いに刺激をもらえるのではないか。

増田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> どこまで市として関わっていくのか。各民間施設の特徴をまとめ、情報提供することは可能なのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 教育センターは、民間施設に関する情報をリーフレットとしてまとめ、情報提供している。
増田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> 個別のケースについて、どの施設がよいかなど案内してもらえるのか。どこがよいかと限定することまでは、実態を直接見ているわけではないため難しいと思うが、こういったところがあると進めやすい。リーフレットだけではなく、各施設の特徴を比べられるようなものがあると良い。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 限定的に伝えることは難しいが、それぞれの施設の特徴など情報を提供することは可能である。 学校から相談があった際、該当児童生徒の状況を伺った上で、市として把握しているそれぞれの施設の特徴について、情報提供をしている。しかし、実際に本人や保護者が見学に行き、最終的に決めてもらうことが必要だと考える。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士の口コミはすごいものがある。私の施設ではだんだんと、似たような状況の子が集まってきている。
松田委員	<ul style="list-style-type: none"> 相談の中で、施設の特徴を保護者に伝えることはできる。ただ、マッチングするかは別である。紹介だけではなく、見守りを行い、上手くいかなかった時のフォローを行うことが大切である。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 委員会の意見としては、実施回数は2回程度が良いということである。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 次に、(2) 保護者を支えるための支援についての説明を事務局から、お願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 保護者を支えるための支援について説明する。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> それでは、検討に入ります。意見がある方はお願いします。
門馬委員	<ul style="list-style-type: none"> 第2回実施時に、前回は参加していた方はどれくらいいたのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 約半数数は前回の参加者であった。

小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回は、前回に比べ参加人数は増えたのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・参加人数はやや減った。
増田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・2回とも参加した方が多いということは、それだけ保護者の不安が大きく、つながりがほしいのだと感じる。このような場は必要だと思う。子供を取り巻く環境がそれぞれ違うが、どのくらい交流できているのだろうか。年間2回と言わず、もっとやってもいいのではないか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・グループについては、申込み時に交流したい内容を確認するようにし、お子様の年齢や似た課題などを考慮し、交流をしやすいようしている。
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・こういった会は、回数は多く、参加者は少ない方がよいと考える。参加者を増やそうとすることは不安を煽るのではないか。介護や福祉の発想で考えると、行きたいときに行って、ガス抜きをする。最低学期に1回やってもらいたい。最終的には、参加者が0人になるのが理想と考える。保護者は、話したいことがたくさんあるので時間が少ないのは仕方がない。アンケート結果のマイナスな部分の分析し、満足度を高めていくとよい。
門馬委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学校から講演会の案内を出した時は、数人しか参加がなかった。それと比較すると多くの反響があり、続けて参加した方が多くいたということはニーズがあるということだ。行きたいときに行ける形は良い。慣れてきたら場所だけ提供することでも良いのではないか。
栗原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者は「なぜ、うちだけ」「どうして」と思われている方が多い。自分だけではないことを知り、進路などの見通しが持てるとよい。実施は学期毎がよいと思う。時間は1時間だと消化不良ではないか。1時間半あると良い。コミュニティーが狭いのか、ママ友同士で話せば終わりそうなことも悩んでしまっている。母子でシンクロして状況が悪くなってしまうこともある。場所だけの提供については、門馬委員と同意見である。
波瀲委員	<ul style="list-style-type: none"> ・11月の第1回の時に手伝いに入った。話していくうちに躓きの共通点に気付いていた。保護者は周りとのギャップに苦しんでいる。同じような悩みを抱えている保護者が話す機会を求めている人がいる。会に参加した保護者は、教育センターから出ても1時間以上話をしてきた。普段は言えない悩みを抱えている。実施は学期に1度は必要である。躓き始めるあたりで設定されると良い。

松田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・体験談を語ったパネリストの担当だった。集まっている保護者は先が見えず苦しい。SNSなどの情報は偏っているものがある。市での実施は、とても意義がある。保護者を支える視点から少なくとも年間2回は実施すべきだと思う。内容は大規模のものもよいが、絞って行うことも検討するとよい。昔、教育センターでは、状況が似ている保護者同士の座談会をやったことがある。その時も保護者の話が尽きなかった。語り合うこともよいが、20歳前後のパネリストをお呼びして、少し先が見えるような内容を取り入れると、プラスになるのではないか。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・年間2回以上できると良い。5月も不登校は増えるが、9月も増える。あと2月くらいもそうだ。私の施設では、月に1回保護者会をやっている。5年ほど来てくれている方もいる。その方をパネリストと呼ぶと、かしこまってしまうので、参加者の一人として呼び、グループに入ってもらえると良い。対象を広くとるのであれば、子供が学校を楽しめていないと心配な方とし、逆に、不登校の学習についてなどとテーマを絞って実施することもよい。
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・6月と10月と2月にいじめが多い。ちょうどクラスが成熟してくる時だと聞いた。4か月ごとの3回でちょうど良いのではないか。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たちは、学期が始まって少しすると、同じ集団であっても、関わりを変えようとする動きが出てくると言われている。その動きがいじめという形で表面化することがあるようだ。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、(3) 上尾市不登校対策基本方針についての説明を事務局から、お願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・上尾市不登校対策基本方針について説明する。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・続いて、質疑を行います。何か確認することはありますか。 <p>※委員からの意見なし</p>
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・次に、(4) 校内支援体制の構築についての説明を事務局から、お願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・校内支援体制の構築について（SSR）について説明する。

小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それでは、検討に入ります。意見がある方はお願いします。
太田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、リラックスルームという名称で利用している。中学校では、不登校生徒が来て、ステップアップの場所かもしれないが、急に暴力をふるうなど突発的な行動をとる子供たちをクールダウンさせる部屋として活用している。ユニット畳を用意し、イ草のにおいて空間の変化を感じさせて落ち着くきっかけとしている。他にも、ビーチテントやぬいぐるみ、ストレス発散用にビニルのサンドバックを置いている。SSR専門の支援員を配置してもらいたいが、現状はいないため、やむを得ず支援員が対応している。狭いところが好きな子が多いため、段ボールを設置し、自分だけのスペースに入れるようにしている。個人情報に配慮しながら、利用ノートを作成し、全体で利用について共有している。専門員が配置されたら、気持ちが荒れてしまっている子を落ち着かせる役割をしてほしい。利用者がいない場合は、クラスの中に入り、支援をお願いしたい。
増田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校も部屋はあるが支援員の配置はないため、教員をつけるようにしているが、出張など必ず人をつけられないこともある。その場合は、さわやか相談室で対応している。物理的なものは対応できるが、教員の欠員が出ると対応が厳しくなってしまうのが現状である。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・自殺は中高生で今回さらに増えた。暴力行為は小学校で増えてきている。小学生段階は感情のコントロールが難しく、攻撃的になりやすい。一方で中高生は内に籠る傾向がある。アンケート結果では、リストカットを経験したことがある子供は17%だった。常備薬によるオーバードーズもある。コロナがなくなっても不登校はどんどん増えていくだろう。これはPTSD様の反応である。子供にとっては怖かった経験だったからだ。 ・太田委員の学校での工夫はよく考えられている。段ボールは自分だけのスペースとなり、心の安全基地のようになっていると思う。
門馬委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本校では、SSRの話が出る前にクールダウンルームという部屋を設置していた。教員が付けなため、保健室隣に設置し、よく確認に行っていた。安全上の心配を伝え続け、教員の空き時間を工面してもらい、午前のみ教員が対応できるようにした。これが現在の本校のSSRになっている。決まり事として、長期間の利用ではなく、不登校傾向の子供たちの次へのステップの場としている。また、子供が気持ちを整える場所としても活用している。SSR専門の支援員がいると、教員の負担軽減につながるし、時間割のように決まった時間の使い方ができるようになると思う。そうすると子供が行きやすい場となると思う。

栗原委員	<ul style="list-style-type: none"> ・本校には門馬委員の学校のような場所がなかったため、空き教室を活用した物置に衝立を設置し、廊下から中は見えないようにしてSSRを作った。1階入口の近くにあるとよいが、現状は2階にある。利用状況は学年によって色がある。もっと早い時間から開けたいが支援員がいないため、10時に相談室に来ている場合もある。まだ活用は十分ではない。SSR専門の支援員がいれば、さわやか相談室との役割分担、住み分けができる。 ・前任校では、3・4時間目は相談室が開くため、1・2時間目と5時間目にSSRを開室していた。住み分けができたよい事例だったと思う。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・以前に関わった中学校では、不登校対策を行うと別室登校する生徒が増えた。利用している子は大きく3タイプであった。教室にいられない子、学校に行きづらくなっている子、学校に戻ろうとする子がいる。予算等も十分あったため、同じ室内にいることは難しいと考え、タイプ別に3部屋用意した。空き時間の教員がその部屋で特別授業をすることもあった。
増田副委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・それができるとよい。上尾だと33校で100人程の人員が必要になる。
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> ・介護現場では、人手が足りないためICT導入を進めている。部屋にカメラを設置し、スタッフルームからモニタリングする。利用者が困ったことがあったら、カメラに声をかける。双方向でやり取りが可能である。人員がいなのであれば、このような形も考えてみてはどうか。ただ、人がいない空間は、あまり行きたい場所にはならないと思う。人の温かみは大切である。人のいるところで使えるようにすることが望ましい。
波瀲委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子供たち一人一人のアセスメントを十分にすべきである。課題は多い。小学校では自由に過ごせていて、中学校は厳しくなってしまうなどルールの違いにギャップを感じた場合は、自分に合わないとなってしまうだろう。支援員はある程度の共通理解がないといけない。小中学校間、各学校間で差異が生まれないようにしていく必要があるのではないかな。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> ・学校復帰につなげるためには、その場所に「行った甲斐があった」と思えることが必要である。人より機械の方が安価なので、ICTを考えてもよい。子供がカメラを使うようにするためには、職員室側の映像が子供たち側から見えることが大事である。
松田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を見て、SSRを利用している数が多いことに驚いた。各学校の案内の仕方はどのようにしているのか、教育相談で担当している子供は知らなかった子もいた。さわやか相談室と併用している場合は、どのくらいな

	<p>のか。場合によっては相談室とSSRの住み分けをしているのか。そこが分かると今後、保護者にも説明しやすい。また、小中学校間での引継ぎも重要である。十分なアセスメントを行っていくことが大切である。中学校でどのように過ごしているかという見届けが必要である。</p>
栗原委員	<ul style="list-style-type: none"> 本校では、休み始めた早い段階で個別にSSRの案内をしている。相談室だけにしか入れない子もいるため、子供が選んでいる。本校では、SSRはオンラインで授業参加したり、自習したりする学習をメインにした部屋のイメージである。相談員が勉強を教える立場ではないため、学習に躓きがあったり、学習に不安を抱えたりしている生徒が教室復帰を目指して過ごす部屋になっている。自分の子が通う小学校はSSRについて、全保護者にメールで連絡がきた。小中学校で違いがあると感じた部分である。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 校内で住み分けをしても児童生徒や保護者をはじめとする外部に伝わるかは別である。縦と横の学校間のつながりを統一することができた方がよいが、検討の必要がある。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 次に、(5)次年度以降の計画についての説明を事務局から、お願いします。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> (5)次年度以降の計画について説明する。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 先程の話だと、不登校について語り合う会はどこかでもう1回できるとよいという意見だった。
高山委員	<ul style="list-style-type: none"> 不登校について語り合う会は、第3回目を2月くらいに設定できるとよい。全体として、これまでに取り組んでいないことをやっけて、画期的で前向きに取り組んでいる。不登校を語り合う会に実際に行かれた方に話を聞いて、よかったと聞いている。これからもよい着眼点をもって取組を進めてほしい。
太田委員	<ul style="list-style-type: none"> 不登校を語り合う会という名称が硬い印象である。保護者がもっと気軽に口にできるものがよいと思う。現在の名称はサブタイトルにし、「ほっとサロン」等、もっとソフトな感じの名前を検討すると良い。
小林委員長	<ul style="list-style-type: none"> 以上で、本日も予定しておりましたすべての調査・検討を終了します。ありがとうございました。

	<p>2 諸連絡</p> <p>○閉会のことば</p>
--	-----------------------------